



人類はひとつ 世界中に友情の橋をかけよう

MANKIND IS ONE - Build Bridges of Friendship Throughout the World



会長 中江 亮 幹事 佐藤元伸 副会長・クラブ奉仕 川村徳男 職業奉仕 嶺岸光吉 社会奉仕 山口篤之助 国際奉仕 黒谷正夫 青少年奉仕 津田晋介

出席報告：会員 76 名 出席 57 名 出席率 75.00 % 前回出席率 75.00 % 修正出席 69 名 確定出席率 90.79 %

会員スピーチ

銀座地区市街地再開発について

松田士郎君



現在銀座商店会で市街地再開発について計画し着々進行中でございますが、当初の計画ではA図の一面全部を再開発しようという計画でありましたが、あまりにも膨大すぎるということで、計画が変更され、斜線部分の地域だけを再開発しようということになりました。

現在、銀座通りは11m道路であります、市の都市計画道路で18mにしなければなりません。資金的なものなどで、道路を拡げるためには再開発と一緒にした方が有利じゃないかということで、銀座通りでは第3ブロックと言っているが、この部分から

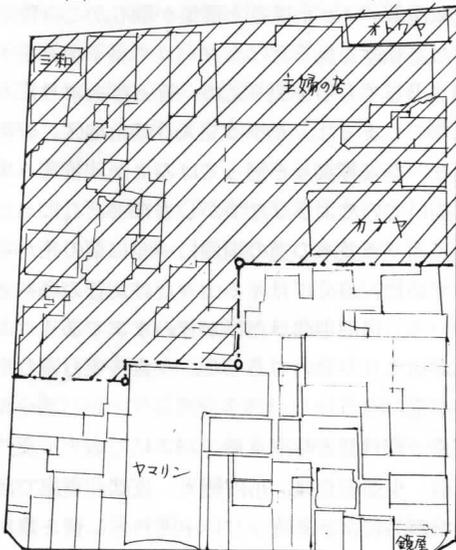
やっていく予定です。この道路を18mにして、車道を9m、歩道を4.5mづつとる関係上、現在の建物を3.5mづつテークバックしなければならないのが現状で、それにアーケードをつけていこうという計画です。

建物の概要は、商業ビルが5階建て、駐車場ビルが7階建ての予定で、上にアイススケート、ローラースケート場を作り、文化施設として中規模な文化会館的なものを作る予定です。

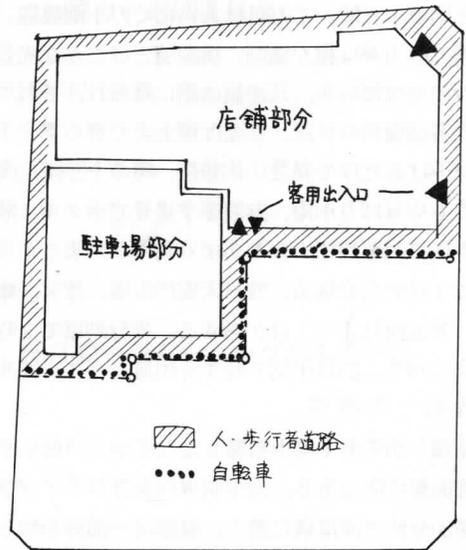
この計画の中でかわっているのが、8mの歩行者と自転車だけの道路をとって、川端通りからの人も銀座通りに吸収したいという計画です。

これからの予定としては、61年10月完成を目標に着々進行しているわけですが、問題点としては、銀座の中央に1カ所大きなビルを建てて集客力がある

A 図



B 図



のかどうか。理想としては銀座通りに2カ所位核になる大きなビルがあった方がいいのではないかと言う意見が出ております。ただ、現在銀座通りも大変落ち込んでいますが、皆さんおわかりのように銀座

通りもサラ金通りと言われているようですが、組合員110名一丸となって鶴岡の中心商店街として頑張っておりますので、今後とも深いご理解をお願い致します。

## 中国友好の旅

内山喜一君



40年前に駐留していたなつかしい北支に行ける

と知った時から、私達は大きく夢がふくらんでいた。不安と希望が入り乱れ、半年の間、それはそれは長い期間でした。その嬉しい中国の旅が私達

にとっては人生最高の喜びとなったことでしょう。一行30人、どなたの想いも同じでした。

北京…4月19日、ホリディインナリタに1泊、明朝8時30分、大阪廻りの日航機北京行きにて出発。2時15分北京空港着。入国手続きも無事に済み、出迎えの大型バスに乗り40分程で天安門広場に着く。途中ポプラ並木の7kmに亘る快適のドライブコース。左右には桃・梨等の花盛り。天安門から天壇公園を見てホテルに向う。ホテルは友誼賓館。ソ連技術関係者の宿舎に使われた広大な敷地と建造物、まあまあ設備であった。21日朝8時30分出発。万里の長城と明の十三陵。この日はあいにくの小雨模様。長城近くの山々は梅が満開。桃源境とはこんな光景を云うのではないか。八達嶺は雨に降られ、それでも観光客は満員の状況。私達は頂上まで登らず、下から見上げるだけで昼食。休憩後、明の十三陵に向う。ここもやっぱり小雨、参観をすませてホテルに帰る。夕食後京劇を観る。皆があまり判らないようだったので1時間程で帰る。22日天安門広場、故宮、頤和園、友誼商社等で1日が過ぎる。夜行列車で9時発曲阜に向う。23日午前6時半兗州着。バスにて曲阜に行く。

曲阜…40年前1年半も暮したなつかしい曲阜だけに皆興奮状態である。途中泗水河を渡り、ポプラ並木を20分位で曲阜城に着く。城壁は一部分を残してほとんど取払われていた。大成殿も孔子廟も昔のま

まであった。ホテルは昔の至誠殿。中庭のある中国風の建物に観光客のために改造されたお粗末なものであった。私達には却って中国の面影が残っており嬉しかった。大成殿、孔子廟など曲阜の名跡をなつかしく参観。5時より中国側要人(曲阜副知事を始め5人)と表敬訪問の行事を行う。

訪中団のメッセージと記念品、朝倉文夫作「大人可笑」と日本から酒とタバコを各人が土産として持参これをプレゼントした。中国側から石刷、本等が贈られた。6時30分よりホテル大会場で晩さん会。中国側を招待。この会場には、日本、中国を始めフランス、ドイツ、イタリア等の観光客も大勢おり、期せずして国際パーティーとなった。北国の春、花笠音頭からオーソレミヨ、サンタルチアまでとび出す大音楽会。曲阜始って以来の賑いであった。

戦跡廻り…24日朝から戦蹟訪問。曲阜から2時間足らずで昔の駐屯地、寧陽はまだ未開放地区、同時に今新しい街に作り変ろうとしている最中。街の中央に大通りが出来、昔の面影は何一つ残っていない。私達のバスが止まると群集が取りかこみ物珍らしくただ私達を見るだけ。タバコや菓子などを子供に差し出しても手を引っ込め、昔とはあまりにも変りはててしまった。兗州は立入り禁止地区。紋河、安篤荘、泰安等次々と廻ってはみたが、皆変り果て險に描いていたようななつかしさなどどこにもなかった。ポプラ並木の道の両側に一面に菜の花が咲き乱れていた。遠くに見える山々だけが昔の姿をとどめている。宿泊地曲阜だけが昔のままだったのでそれが何よりの救いであった。夕食後夜行寝台車に乗り南京に向う。

南京…25日朝8時南京着。バスにてホテル双門楼賓館着。少憩朝食後、市内観光。夜は迎賓館で宮廷料理で24品に余る素晴らしい中国料理に皆を驚かせた。

蘇州…26日午前11時発蘇州行列車に乗り込む。午後2時半蘇州着く。友誼商社、拙政園、刺繍工場等を参観。蘇州飯店に入る。夕食後民族舞踊、歌舞団を見学。27日寒山寺、虎丘山等を見学。

上海…11時上海に向う。正午上海着後バスで街を観光、友誼商社等。ホテルは上海随一のブロードウェイ、マンションの大廈、最後の夜に花を添えて呉れた。窓からはガーデン、ブリッジ、黄浦江等上海の夜景を眼下に見下し全員大機嫌。夕食後上海名物雑技を観る。28日朝ホテルを後に玉仏寺を見学。人民広場、上海工業展覧館を見学。昼食後上海空港に向う。15時発日航機に搭乗、大阪廻りにて成田に19時40分着。無事旅行終り解散。

なり振りをかまわぬ程に土産持ち

中国の旅つつがなくすむ 蛙の子

## 会長報告

中江亮君



○多くの会員の皆さんには既にご承知の事ではあります、本日は皆さんに悲しいお知らせをしなければなりません。即ち会員の早坂源四郎さんが長い間病床に就かれておられましたが、薬

石の効なく去る5月19日午前9時25分ご逝去されました。早坂さんは昭和35年1月当クラブにご入会され、その後41年7月1日に第8代クラブ会長に就任され、クラブの発展に絶大なるご貢献をされましたが、続いて翌42年庄内分区分代理となられ更には48年7月1日当253地区ガバナーとしてご活躍され、地区内に早坂源四郎在りの名をあげられたユニークな所存の方でありました。「職業奉仕の事例集」「ロータリーの道徳律」「ロータリーとは」等々数多くの著作を発刊されました事はロータリアンの均しく知るところであります。早坂さんはこよなくロータリー初期の原理を愛され就中道徳律については終始その精神を貫かれたようであります。ここに在りし日の早坂さんのご功績を偲び慎んでご冥福をお祈り申し上げたいと存じます。皆さんご起立の上1分間の黙禱をささげたいと思います。

○鶴岡・ニューブランズウィック友好協会総会についての報告

去る5月18日第1インに於て、鶴岡・ニューブランズウィック両市の友好を更に発展させる目的で作られた市民の各層を網羅した友好協会の総会が開かれましたが、出席者は約60名で、市長・市会議長の祝辞の後、当クラブ会員の三井徹さんが会長に選ばれました。これからニューブランズウィック市長やロータリアンのご来鶴が予定されておりますが、皆さんにも先立ってご入会をお願いしましたところ、殆どの会員の方のご入会をいただき洵にありがとうございました。尚、まだ入会されていない方は是非お早めに事務局の山下さんまでお申し込みの程お願い致します。

○来月6月9日は当クラブの創立記念日ですが、この日を6月7日の定例例会日に繰り上げてささやかなお祝いをしたいと考えています。尚、この日の記念講演はチャーターメンバーの津田晋介さんをお願い致しました。ご承知の通り型破りの面白いお話、ユーモアに富んだお話を存分に承りたいと思い、楽しみにしております。この日だけは皆さん我がホームクラブに出席されて、一生に一度の思い出にして下さい。

## 幹事報告

斎藤隆君

1. 会報到着 いわき平R.C.
2. 「いわき平R.C.30年の歩み」記念誌到着

## 委員会報告

### 1. ロータリー財団委員会

佐藤衛君

会員の本山弥君、内山喜一君、斎藤隆君の三名の方よりポールハリス準フェローになるためのご寄付を頂いております。なお内山君はポールハリスフェローになられておりますが、今回2回目のご寄付を頂いております。今年度ポールハリスフェローが5名、準フェローが20名になりました。

### 2. N.B.ロータリークラブからの手紙

新穂光一郎君

ニューブランズウィックロータリークラブから私あてに2通の手紙が参っております。

1つはN.B.ロータリークラブのデヴィット・M・ハイラインさんからのもので、青少年交換学生の申



請書を受けとったと言う事で、751地区（ニュージャージー州地区）のオーレンリイチさん（青少年交換委員長）と申請書について検討したとの内容でした。もう1つはジョージ・オスターグレンさん（N.B.ロータリークラブ会長）からのもので、デヴィット・A・ハイラインに対する推せん状で、

彼は多国語を話せる好青年で、是非日本で働きたいが、就職先について尽力して欲しいという内容の手紙が来ておりますのでよろしくお願い致します。

### ビ ジ タ ー

温海R.C. 齋藤五郎八君  
 鶴岡西R.C. 佐藤 拡君  
 〃 齋藤 正志君  
 （今週の担当者 齋藤 隆）

## 早坂源四郎著

### 「ロータリーとは何か」より抜粋

ロータリーとは何か？と云うご質問には色々な形で回答されていますが、私はこの度は、どうしてロータリーは造られたのか、何時何処で造られたのかと云うロータリーの創設の原点を求めてその歴史を追ってご説明したいと思えます。そして一番重要な事は誰が発案設計したかと云う事です。云うまでもなく、一介の37才の若い弁護士ポール・ハリスであり、彼が創設の役割を果たした創立者であります。

ロータリーは1905年2月23日、米国シカゴ市のデイヤボン街のユニティビル 鋤山技師ガスターバス・ローアの事務所の一室で、弁護士ポール・ハリス、石炭商シルベスター・シール、洋服商のハイラム・シヨレーそれに事務所の主人公、ガスターバスの4人が集って創設されました。ロータリー創設の中心人物ポール・ハリスは後に国際ロータリー会長となり、1947年1月27日の逝去まで40数年間をロータリー運動に彼の生涯を捧げたのです。

#### ロータリー創設の動機とその経緯

ポール・ハリスがプリンストン大学を経て、祖母のすすめるアイオワ大学法科に入学し、法律を学び1891年24才で卒業、それから5年間の放浪生活で人世社会学を体験し、漸く1896年シカゴの土地を選んで、ここに定着するようになった。—中略—

1900年の夏のある日、ポールは友人の弁護士と夕食を共にした後、連れ立って附近の街頭を散歩したが、その道々二人は種々の商店や事務所を訪問し、その度毎ポールはこの友人から各店の主人に紹介されたのであった。ポールはこの夜の散歩から深い印

象を受けた。彼の友人が近隣の実業家達の間に、多くの良い友人を持っている事に深い感銘を受けたのである。ポールの処へは、法律事件で依頼に来て交る様になった職業上の知人は居たが、それ等の人々は社交上の友人ではなかった。彼はここでこの職業上の知人を、その一部の人でも社交上の友人にする事は出来ないだろうかと云う事を考え、更に各種の事業家達を社交的に結合した一個の団体という様なものを考えてみた。更にその団員達が各々の異なった職業を代表して参加し、相互に助け合う事が出来るならばと考えた。彼は遂にこうしたクラブの組織を思い立ったのである。—中略—

1905年2月23日の夜、第1回の会合をユニティビル内のガスターバスの事務所で開催した。—中略—

ロータリー初期の精神はしばしば利己的であったと評されていますが、確かにこれは否定出来ません。新会員の勧誘は商売上の利益と云う基調の下で直接訴えられた事も事実でありました。然しながら初期のロータリーに於ても、その根本理念として主たる思想は“与えんとする”に在って“受けんとする”思想ではなかったとポール・ハリスは強く述べて居ります。—中略—

そして第3年目の初めに、シカゴクラブが漸く大伸展を示して来た時、ポールは推挙され、クラブ会長の任に就きました。彼の抱懐していた三つの野心は、

- 第一にシカゴクラブの発展を益々促進する事
- 第二はロータリー運動を他の諸都市にまで拡充する事
- 第三はクラブの目的の中に社会奉仕の項目を加える事